

衣替えも進み、朝夕少し寒ささえ感じるようになりました。受験生の3年生には勉強しやすい気候となりました。大学入学共通テスト受験の出願は、現役生の場合、学校で一括して行うことになっており先日の受付開始日に118名を出願しました。10月5日、大学入試センターより受付完了の旨のハガキが届きました。現在、総合型選抜入試の出願が終わり、学校推薦型選抜入試の出願準備がはじまっています。志願者の中には、志望理由書が書けず、出願書類が整わない人がいます。「誰かが用意してくれる、考えてくれる」と勘違いしている人がいます。

「自分のことは自分でやる！」

ようにしてください。出願開始日には出願できるように、前日までに用意してください。

最近Web出願の大学がほとんどです。選抜要項をダウンロードし、プリントアウトをした要項をしっかりと読み込んでおいてください。「出願登録・入学検定料支払い」を済ませた後に、ようやく「出願書類」がダウンロードできる場合があります。この「出願書類」には、推薦書、志望理由書、調査書などがあります。校内では、起案をし、学校長の承認を受けなければなりませんから、書き直しや訂正には数日かかります。出願開始日の前日までは、全て揃うように早めの準備をしてください。顔写真データや登録用メールアドレスを用意しておかなければならない大学もあります。受験票を自らプリントアウトして受験会場に持参する大学もあります（下関市立大学など）。家庭にプリンターが無い場合は、コンビニで行うか、担任に相談してみましょう。

*出願期間が11月2日（月）からの人は、10月30日（金）には出願書類が完成しておくように準備すること。

○1、2年生保護者対象進路講演会を実施しました

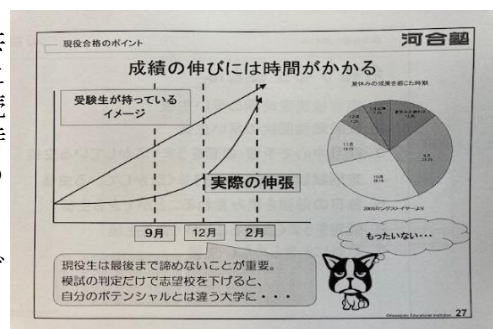
10月4日（日）、河合塾の西日本営業部長の毛利美佳氏をお迎えして、6月末の3年生に続いて2度目となる保護者対象進路講演会を実施しました。80名の保護者の参加があり、皆さん、最新の大学入試情報や保護者の心構えなどを熱心に聴講されました。この講演会の中で、18才人口が1992年の205万人に比べ2020年は114万人と大幅に減少している中で、国公立大学は定員を減らしておらず、難関大をはじめ「今がチャンス」という説明がありました。コロナ禍で不況となり、6万人が失業している現在です。航空・旅行関係の採用が減り、留学が出来ないことから国際関係の学部人気に陰りが見られる状況です。公務員人気が復活してきています。将来を見据え、就きたい職業を描きながら、行ける大学を考えるのではなく、行きたい大学を決めてほしいものです。



○10月記述模試の意味

3年生にとって10月記述模試（ベネッセや河合塾）は、本番の共通テストとドッキング判定を出すための重要データとなります。ただし、現役生は今はまだ発揮できなくても、まだまだ成績は伸び続けますし、勝負は来年の2月です。4ヶ月以上ありますから、現時点での全国での立ち位置や何がどのくらい出来ないのかを確認する模試と考えましょう。右の図は、皆さんの伸びを示したものです（河合塾）。

1、2年生も10月末にベネッセ記述があります。全国の高校生のどのあたりに自分はいるのか、準備をして臨もう。



○志望大学の赤本チェック

2次試験問題は11月までにはやっておくこと。じっくり取り組めるのはこの時期までです。なぜなら12月期末考査後は共通テスト対策にシフトするからです。今のうちに、問題数、傾向、対策を考え取り組んでいこう。小論文も形式などを確認しておこう。今月から赤本発刊がはじまります。（難関大は発刊済み）

○宿の予約は早めに

8月末には東京の本郷や渋谷の周辺、京都市内の来年2月末の宿が埋まっていく。2月25、26日の前期日程の半年前だからです。コロナ禍で来年は外国人旅行者は少ないかもしれませんが、志望校に合わせて宿の確保はしておきたいものです。

9月末の土曜日に広島市立基町高校に行ってきました。広島県内公立トップの進学校です。多くの生徒が学校で自習をしていました。4階にある3年生の教室から見える広島城は圧巻でしたが、歴史のある豊浦高校も環境は負けてないと感じました。（文責 木嶋）

